

学生による、学生のための教科書を作ろう！

代 表 者：外国語学部イタリア語専修 3 回生 雨宮拓郎

メンバー：イタリア語専修の 3 回生・4 回生の 5 人

【 実施内容報告レジュメ 】

- 1．計画から実行まで
- 2．教科書のコンセプト
- 3．製作方法・過程
- 4．総括

1．計画から実行まで

この活動は、外国語学部イタリア語専修の 5 人が中心になって、「これまでの知識をまとめて、それを形として残したい」という思いから立ち上げられました。また、イタリア語を学んできた私たちにとって、これまで使ってきた教材よりももっと使いやすく、おもしろいものを作りたい、という思いもこの活動を始めようと思ったきっかけでもありました。そして自分たちらしい、自分たちに合った教科書を作ろう、というコンセプトのもと、活動を開始しました。

2．教科書のコンセプト

この活動の表題を「学生による、学生のための教科書を作ろう！」にしたとおり、自分たちらしく、自分たちにあった教科書を作ることを基本としています。そのため、これまで発行されてきた多くのイタリア語の教科書のように、「難しい言葉を多用」「ページのほとんどが字で埋め尽くされている」といった一見「敷居の高い」ものにしたいはありませんでした。また内容面でもこれまで私たちが勉強してきた中で「こうすれば覚えやすいんだ...」と気付いたポイントをわかりやすくまとめたいと思いました。

つまり私たちが目指した教科書とは、「読むのがおもしろくて、わかりやすい内容の教科書」なのです。

3．製作方法・過程

教科書を作るために、まず他の教科書の良い点・悪い点をまとめ、そこに私たちがしさを活かせるところはどこなのか、を探るという手順から始めました。具体的には日本で発行されている教科書とともにイタリアで発行されているものを購入し、各自が理想の教科書に活かせるものをはっきりさせました。それからやっと教科書の下書き、構成・編集作業、製本という手順で行いました。

実際の期間で言うと、活動期間の半分近くを理想の教科書像を描くこと、残りを下書きから製本まで、になりました。9月の休み期間中には期間の半分のみまとめとして京都府立ゼミナールハウスで合宿を行いました。この時点で教科書像をしっかりと確定させて、残りの期間につながるものを作ることができました。

4. 総括

この約一年間という限られた期間内で、グループとして一つの成果を出すということの難しさというのを痛感した一年となりました。実際にやり始めると、今まで勉強するだけで、教科書を作るどころか教えたことさえもない私たちにとって、これはまさに「チャレンジ」となりました。なかでも、「理想の教科書像」を決める時は今まで一人一人違う方法で勉強してきたぶん、当然それに求めるものも違うことも難しいことの一つとなりました。

これまでに私たちが当初考えていて、最終的できたこと・できなかったことを大きくまとめますと、

- ・ 今までなかなか見られなかった教科書に触れて研究した結果、当初考えていたものよりさらに良いものにまとめられるようになり、還元できたこと。
- ・ 「理想の教科書」として私たちが挙げたポイントのうち、70%～80%を実際に活かすことができた。
- ・ 計画したものの消化できないものが多くでてきて、当初考えていた「イタリア語学習者へのアンケート」が実施できなかった。

の3点でした。

しかし、上でも述べたとおり、やりたいことをすべてできたわけではないので、この一年をステップとして来年度もさらに教科書を良いものにするために、研究を続けていきたいと思っています。

最後に、一つの形として教科書をまとめあげられることができたことに、これまで監修としてご協力頂いたイタリア語専修の小林先生とカスターニャ先生、またお世話いただきました学生部の職員の方々を始め、活動を採用いただいた大学へメンバー一同感謝を申し上げます。